



今月の題字

佐々木 颯くん
（豊間根小2年）

田町のわだい

山田町と架空の山田町が夢の共演 山田マチさんが本町で個展

8月24日から28日まで、作家の山田マチさんが本町で個展を開きました。山田さんの代表作は、架空の山田町を舞台とした「山田商店街」。会場となった街かどギャラリーには、この物語をベースにしたコミカルな書き物や、手作りの本町の地図などが展示され、訪れた人らは笑顔を咲かせていました。本町との間に強いつながりを感じていた山田さん。「“やまだまち”という名前も何かの縁。これからも山田町を応援していきたい」と語ってくれました。



香取市と倉敷市の団体が公演 芸能で子どもたちに元気を

山田の子どもたちに明るく元気に過ごしてもらいたい——。9月18日、荒川小学校と織笠小学校においてYAMADA星太鼓と岡山県の倉敷芸能塾が合同で公演を行いました。これは、本町とYAMADA星太鼓の所在する千葉県の上野市（現・香取市）が姉妹都市だった縁から実現したもの。公演に先立ち同団体から荒川小学校にエレクトーンが、織笠小学校にひな人形と五月人形がそれぞれ寄贈されました。公演は昔話や演技、太鼓を交えたもので、子どもたちは昔話に聞き入ったり、演技に笑ったりと楽しい一時を満喫。締めくくりに獅子が子どもたちの明るい未来を祈願しながら頭を噛み歩きました。

震災復興事業効率化への一歩 行政の垣根を超え覚書締結

町と県による「東日本大震災復興旧工事等に供する土取場と高台の整備促進に関する覚書」の締結式が9月19日、町役場において行われました。この覚書は、町が計画している高台の整備と、県が災害復興事業で使用する土砂の掘削を相互に協力して進めようとするものです。これにより、それぞれ単独で事業を実施した場合と比較して工事費が削減され、事業期間も1年以上短縮されることが見込まれます。締結式で佐藤町長は「今回の覚書締結は一石二鳥のもので、工期が短縮されることは被災者にとって大変心強い」とあいさつ。この県内初となる取り組みにより、復興事業の大幅な進展が期待されます。

